

和歌山だよいい

平成24年11月号



一枚岩（古座川町）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P11
3. ふるさと歳時記…………… P12



ぎふ清流国体へのご声援ありがとうございました。

「自分のためか 世のためか」

アダム・スミスの説くところによれば、人は皆自己の利益が一番大きくなるように経済的な行動をし、その結果生ずる自由競争によって「神の見えざる手」が働き社会の利益が一番大きくなるということになっています。だから皆自分のために一生懸命働いて何ら恥じなくてよいのです。

しかし、世に公務員という名の職業があります。選挙で選ばれる首長や議員も公務員の一種ですから、広い意味で公務員又は公僕です。そういう人は、職務遂行のために多くの特権が与えられています。簡単には職を失わないのは、倒産や社業不振ですぐ職を失う民間の方々とは違います。不正を働かない限り、トップと違う意見を強く主張しても首になることはありません。給料も保証されています。

それは、公務員が、自分のためではなく、世のため人のために働く仕事だから、後顧の憂いなく全力で働け、という仕掛けなのでしょう。つまり、公務員は自分のことを第一の行動原理にしてはいけないのです。

公務員が自分のためと思うあまり怪しげな事をしないように、公務員法など厳しい制約もあります。民間の人なら個人の自由と思われることも、汚職などの科で社会的制裁を受けることもあります。

しかし、私は、このような制約を守っているだけでは公務員としては不十分だと思うのです。ことなかれで過ごしていた方が楽だとか、ひたすら前例だけに頼って世の変化や人々の苦しみを顧みないとか、自己の栄達や保身のために不利な行動を避けるとかは、公務員法などの制約だけで防ぎようがありません。それを防ぐには、まず公務員一人ひとりが大いに志に燃えるとともに、行政庁ならトップである首長が自己の行動も含め厳しく目を光らせなければなりません。職員の働きが悪いのは首長の責任です。

選挙で選ばれる首長や議員も同じです。自分のためではなく、世のため人のために働くのが定めです。しかし、最近よく目にするのは、政党が人気をなくした時、政党人が政党色をなくそうとしたり、人気のある政党に移ろうとしたりする姿です。こういう時「自分のためか、世のためか」という言葉が大変大きく響いてきます。この場合目を光らせなければならないのは県民です。



10/17 和歌山プレスツアーに参加した
外国人記者の皆さんと

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●「元気な和歌山」の実現に向けて平成25年度新政策が決定

・和歌山県に山積する様々な課題に取り組むために、平成25年度の新政策が決定しました。

・「安全」「安心」「挑戦」の3本柱は昨年と同様ですが、社会の新たな状況を踏まえ、内容を追加したものや精査したものがあります。特に「安全」の製作では、先に発表された南海トラフ巨大地震の備えを中心に、総合的に防災対策を進めていきます。

・「大規模災害に備えた『安全』の政策」、「県民の命とくらしを守る『安心』の政策」、「成長に向けた『挑戦』の政策」を着実に推進することで、「元気な和歌山」の実現を目指します。

・今後は、この決定した項目を踏まえ、市町村長との懇談会等を通して意見を聞くとともに、さらに内容を具体化し詳細を詰めていき、予算化が必要なものについては知事査定を経て来年度の予算案となり、2月議会に上程されます。

大規模災害に備えた『安全』の政策

南海トラフの巨大地震や風水害などの災害から県民の生命、財産を守るため、とりうる手段を尽くして総合的に防災対策を推進。

■ 南海トラフ巨大地震等への備え

- 災害時に救援・救助対策の中心となる公共施設の高台移転を促進
- 「津波犠牲者ゼロ」をめざし、避難困難地域における住宅の高台移転や津波避難ビルの建設など災害に強いまちづくりを推進することとし、そのための制度を構築する
- 適切な避難行動を促すため、津波ハザードマップの作成を支援
- 避難路や避難場所の整備、水門等の改修、津波時の火災予防対策など適切な避難に必要な施設の整備を促進
- 津波対策のための港湾・河川施設等の整備計画を見直すとともに、津波から「逃げ切る」支援対策プログラムを改定
- 災害発生時の円滑な救援活動に必要な幹線道路ネットワークの整備を促進

■ 台風や集中豪雨への備え

- 紀伊半島大水害からの生活再建や道路・河川等のインフラ復旧を推進
- 堆積土砂を効率的に撤去し、河川の治水安全度の向上を図るため、砂利の一般採取を再開
- 紀の川水系の治水対策を総合的に推進するため、河川改修や国営総合農地防災事業を実施など

■ 地域防災力の強化

- 防災拠点や避難所の電力確保に向けた蓄電池付き太陽光発電設備の導入を支援
- 適切な避難行動を促すための地震・津波観測情報の収集や降水予測、洪水情報の提供を充実
- 地震や豪雨等による被害を未然に防ぐため、危険ため池の改修を加速化
- 災害時に重要な情報伝達手段となるラジオの受信環境向上対策を実施
(ラジオ通じるプラン) など

県民の命とくらしを守る『安心』の政策

住み慣れた地域で生涯を通じて安心して過ごせる生活環境を創るため、福祉・医療の充実や暮らしを守る政策を堅実に実践。

■ 質の高い医療の確保と健康づくりの推進

- 地域の救急医療体制の強化に向けた集中治療室（橋本市民病院）等を整備
- 看護師不足解消に向けた紀中地域への看護師養成所の設置を支援
- 受診率の向上をめざした検診の充実や新宮市立医療センターへの放射線治療機器の導入など、がん対策を総合的に推進 など

■ **安心して暮らせる社会の構築**

- 生活保護受給者の自立に向け、社会福祉法人と連携しボランティアの場を提供するとともに求職活動を支援
- ペアレントメンター等の養成など発達障害児（者）の健やかな成長を支援するための相談体制を充実
- 高齢者の交通安全対策を強化するため、老人クラブと連携した交通安全教室の開催や高齢者にやさしい道路整備、運転免許証の自主返納を促進する取組を充実
- 脱法ハーブなど県民の健康を害するおそれのある薬物の濫用を防止するため、規制を強化
- 防犯カメラの画像解析システムの導入など科学技術活用により犯罪捜査力を強化
- わかやま婚活応援団認定制度の創設や出会いの機会の拡大など結婚を望む方を応援する取組を強化

成長に向けた『挑戦』の政策

和歌山の成長と発展に向け、意欲に溢れる中小企業や農林漁業者の新たな取組を支援するとともに、心豊かで広い視野を持った人材を育成

■ **地域経済を支える産業の強化**

- 農業用ハウスへの木質バイオマスボイラーの導入支援など新エネルギーの利用を促進
- 優良品種への改植やマルチ栽培等の栽培管理、光センサー等による選果の徹底など、高品質農産物の生産・出荷体制を強化し、主要農産物の価格安定対策を推進
- 次代の農業を牽引する果樹の導入に向けて、新たな品目・品種や栽培技術の開発、改植や用地確保などを総合的に支援
- 鳥獣被害対策を強化するため、有害サル群捕獲対策を実施
- 見本市への出展など国内外に打って出る意欲のある企業の販路開拓を支援
- 観光振興の起爆剤とするため、世界遺産10周年を核に、伊勢神宮式年遷宮から熊野三山の誘客促進と高野山開創1200年キャンペーンを総合的に展開
- 近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道、府県間道路、川筋道路を中心とする道路ネットワークの整備を促進

■ **子どもの自立を育む教育環境の充実**

- 小中学校教員の授業力を向上させるため、子ども達の国語や算数・数学の課題を分析し、すべての小中学校を対象に授業の改善につながる研修を実施
- すべての小中学校において学力が十分身につけているかを把握するための学力到達度調査を実施するとともに、小中高を通じて授業についていけなくなった児童・生徒への補充学習を徹底するなど、学力の向上を総合的に支援
- 新たに作成する副教材を活用し、学校における道徳教育を徹底
- いじめの早期発見と迅速な対応を可能とするため、スクールカウンセラーを増員するとともに新たに専門家によるサポート体制を創設
- 地域の子どもの健全な成長をサポートするため、地元の青年団体等と協働し、「リレー式次世代健全育成事業」の強化に取り組む

■ **地域の特色を活かした魅力の創造**

- 紀の国わかやま国体の総合優勝をめざしたトップアスリートの育成など選手の競技力をさらに強化するとともに、国体関連施設の整備を促進
- スポーツを核に、農林水産業や観光を組み合わせたまちづくりを支援
- 県民の知的好奇心をいざない、未来を担う子ども達を育む場となるよう博物館等の機能を強化
- ジオパーク指定に向け、ガイドの養成やジオツアーの開催など地域を盛り上げる取組を実施
- 超高速ブロードバンド基盤整備により県民の利用環境を向上

● ぎふ清流国体 和歌山県選手団大躍進

- ・ 9月29日～10月9日まで岐阜県で開催された「第67回国民体育大会 ぎふ清流国体」において、和歌山県選手団は、男女総合の得点で、目標としていた830点を大幅に上回る934.5点を獲得し、男女総合（天皇杯）の順位は、昨年の山口国体の43位から21位へと大躍進しました。
- ・ 5競技8種目で優勝し、17競技61種目で入賞。特に競技得点の高い団体戦での健闘が高得点へとつながりました。3年後の紀の国わかやま国体での男女総合優勝をめざして、今後も皆様方のご声援をお願いいたします。

「ぎふ清流国体」における知事コメント

岐阜県で開催されていた「ぎふ清流国体」において、本県選手団は男女総合順位（天皇杯）21位、女子総合順位（皇后杯）37位の成績を収めました。
 昨年の山口国体では、男女総合は43位、女子は45位だったので、大きく成績がジャンプアップしました。選手の健闘を讃えたいと思います。
 今後も気を緩めることなく、県内競技団体と連携を図りながら、3年後の男女総合優勝に向け、引き続き競技力向上に取り組んでいきたいと思います。
 選手団の皆さん、本当にお疲れ様でした。
 これからも目標に向かって、一緒に頑張りましょう！

ぎふ清流国体優勝者

(順不同、敬称略)

競技	種別	種目	氏名	所属
レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル 74kg級	奥井 眞生	県立和歌山工業高等学校 (2年)
ウェイトリフティング	成年男子	77kg級(クリーン&ジャーク)	白草 竜太	和歌山県教育庁
	成年男子	94kg級(スナッチ)	川畑 源大	県立那賀高等学校
	少年男子	62kg級(スナッチ)	西村 健吾	県立紀北工業高等学校(3年)
フェンシング	成年女子	フルーレ団体	九野 桃佳	和歌山市立日進中学校
			松本 伊世	県立和歌山高等学校
			西岡 詩穂	NEXUS株式会社
カヌー	成年男子	カヌースプリント カナディアンシングル500m	阪本 直也	教育センター学びの丘
		カヌースプリント カナディアンシングル200m	阪本 直也	教育センター学びの丘
アーチェリー	少年男子	団体	津田 勇志	県立和歌山高等学校
			栗田 清貴	県立貴志川高等学校
			山田 啓睦	県立和歌山高等学校

● 紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会オフィシャルスポンサー第1号

・10月15日、知事室において、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会のオフィシャルスポンサー第1号に決定した株式会社廣甚への感謝状贈呈式が行われました。

・オフィシャルスポンサーは、両大会の開催趣旨に賛同され、500万円の協賛金の支援をいただいた企業・団体に贈られるもので、贈呈式では、まず、株式会社廣甚 廣岡聖司社長から、仁坂知事へ協賛金ボード（目録）が手渡されました。



・仁坂知事は「最も早くスポンサーになっていただきありがとうございます」と感謝の言葉を述べ、感謝状、マスコット「きいちゃん」のぬいぐるみ及び国体・大会イメージソング「明日へと」のCDを贈りました。

・株式会社廣甚は大型ドラッグストアのエバグリーンを中心に、生鮮食品スーパーや焼き肉店などを幅広く展開しており、オフィシャルスポンサーのほかにも、系列店舗において紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の募金付きピンバッジの取り扱いや募金箱の設置に協力をいただいています。

・

● ロンドンパラリンピック 銀メダリスト 中村智太郎選手が県庁を訪問！！

・10月19日、先月のロンドンパラリンピックの水泳競技男子100メートルで銀メダルに輝いた中村智太郎選手（橋本市在住）が仁坂知事を訪問しました。

・生まれつき両上肢欠損という障害のある中村選手は、前々回のアテネ、前回の北京に続き3大会連続でのパラリンピック出場となり、今回のロンドンでアテネの銅メダル、北京の5位入賞を上回る好成績を収めました。



・仁坂知事は「手術までして、それを克服して今回銀メダルを獲られた。どんどん精悍ないい顔になられている。」と中村選手の活躍を賞賛しました。

・これまで、国際的な大会で数々の優秀な成績を収め、和歌山県スポーツ顕賞を6回受賞している中村選手には、今回「和歌山県スポーツ顕賞特別賞」が授与されました。

・中村選手は「足の手術をし、1年あまり水泳を休んでいましたが、ここまで復活できたのは県民の皆さんのおかげです」と感謝のことばを述べました。

● 和歌浦漁港交流拠点施設（おとっとと広場）が完成！

・和歌山市の和歌浦漁港に、和歌山県が整備を進めていた交流拠点施設（おとっとと広場）が完成しました。

・この施設は、和歌山県漁業協同組合連合会が所有していた製氷冷凍冷蔵施設を譲り受けて、改修をおこなったもので、2階建ての建物には、販売ブースや調理スペースが設けられています。

・販売ブースには、水産関係事業者の協力を得て、和歌浦湾で獲れる「わかしらす」「あさり」「アジアカエビ」等を中心に県内産の鮮魚やかまぼこ等の水産加工品の販売を予定しており、漁港を中心とした地域の活性化や情報発信の役割を担います

・10月31日にはオープンにさきがけて関係者を集めての内覧会が開催されました。仁坂知事は「和歌浦を元気にと、地元の皆さんが頑張っておられる。このような新鮮な魚を買うことができる場所があればもっと盛り上がる」と挨拶し、完成を祝いました。

・営業時間は土曜、日曜日、祝日の10:00～14:00で、営業開始は、11月3日から、この日は漁港周辺で「第13回和歌浦漁港朝市・しらすまつり」も開催され、大勢の来場者で賑わいました。皆様も新鮮な海の幸をお求めにぜひお越し下さい。



● スペイン・ガリシア州青少年交流訪問団が来県

・10月28日～11月4日、スペイン・ガリシア州から、14名の若者が和歌山県を訪問しました。

・和歌山県とガリシア州は、世界歴史文化遺産である「熊野古道」と「サンディアゴへの道」を有することから平成10年に姉妹道提携を締結しています。この姉妹道提携を基盤に、相互理解を深め、青少年の人材育成を図るため、平成22年度より青少年の相互派遣交流事業を実施しており、今回の訪問もこの事業によるものです。

・訪問団の一行は、10月29日に県庁に仁坂知事を表敬訪問しました。仁坂知事は、熊野古道の歴史などにも触れながら、「和歌山でたくさんの思い出をつくり、スペインへ帰って下さい」と挨拶し、訪問団を歓迎しました。

・訪問団は、姉妹道提携のきっかけとなった熊野古道を散策したほか、伝統文化などの体験、さらには3泊にわたってホームステイも行い県民との交流を深め、帰国の途に就きました。



● 「全国障害者熊野古道交流会」を開催しました。

- ・ 10月30日～31日の2日間、「全国障害者熊野古道交流会」が開催されました。
- ・ この交流会は、和歌山県身体障害者連盟の方々との「知事を囲む懇談会」の席上、「全国の障害者にも和歌山の良さを知ってもらえたら」という話題が出たのをきっかけに、企画されたものです。
- ・ 県内外から付き添いの方を含めて200名余りが参加し、初日は、白浜町のホテルにおいて、「熊野古道フォーラム」として、熊野古道の歴史を学ぶ講演などが行われました。夜には交流会が催され、仁坂知事も参加。「熊野は古より、人々を分け隔てなく受け入れてきた地。秋の熊野古道を楽しんでリフレッシュしてほしい」と挨拶し、参加者を歓迎しました。
- ・ 翌日は、熊野古道体験の本番。熊野本宮大社の神域の入口とされる発心門王子から発心門バス停付近までの約900メートルのコースや水呑王子から杉林に囲まれた約1キロメートルのコースを体験し、合わせて熊野本宮大社に参拝しました。
- ・ これを機に障害のある方も安心して観光できる和歌山を広く発信していきます。



● 全国へき地教育研究大会が開催されました

- ・ 10月18日～19日、田辺市の紀南文化会館を主会場に、「紀の国わかやま発・子どもたちの未来を拓く人間力を育む教育」をスローガンにした全国へき地教育研究大会が開催されました。
- ・ この研究大会は、山間部などのへき地において、教育に携わる教員らが全国から一堂に会し、様々な課題などについて、研究協議を行うもので、毎年、各県の持ち回りで開催されています。
- ・ 大会初日に、来賓として出席した仁坂知事は「教育は和歌山県にとって最も大事な行政の目的。県内にはへき地がたくさんあるが、県内のすべての子ども達にできるだけ多くの教育の機会を与えるということが最も大事。へき地教育はへき地教育振興法で優遇されているが、それだけでなく、行政、社会の制度のありとあらゆることを使ってへき地教育をきちんと進むようにしなければならない。例えば、地方分権の流れの中で、教員の人事権を中核市や市町村に委譲するという話があるが、絶対に反対である。へき地への優秀な教員の配置やへき地にいってもらわなければならない教員の採用を考えると権限委譲は難しい。従って全ての制度が子どもたちのためになっているかを考えなければならない。今後も和歌山県は教育委員長も知事部局の行政の者も、へき地の子どもたちに十分な教育の機会を与えることができるか、考えていきたい」と力を込めて挨拶しました。
- ・ 大会は、基調講演や分科会のほか、田辺市や白浜町の山間部の小・中学校で公開授業も行われ、2日間にわたり活発な意見交換がなされました。

●在京外国特派員による「和歌山プレスツアー」を実施！

・10月16日～17日、公益財団法人フォーリン・プレスセンターと和歌山県による在京外国特派員の「和歌山プレスツアー」が実施されました。

・今回のツアーには、フランス、イタリア、中国など6つの国と地域から、8人の記者が参加。

・1日目は、熊野古道や熊野本宮大社などを訪れたほか、熊野速玉大社の御船祭も見学。最後に那智勝浦町役場を訪問し、寺本町長にインタビューを行いました。

・2日目はまぐろの競市や熊野那智大社を訪問した後、広川町に移動し、稲むらの火の館などを見学。ツアーの最後に県庁を訪れ、仁坂知事に対して、和歌山県の魅力や台風12号からの復興、大規模災害への備えなどについて、インタビューを行いました。

・仁坂知事は紀伊半島大水害の被害、復興状況、地震や津波に対する県の取組を説明。さらに高野・熊野に受け継がれてきた「寛容の精神」に触れながら、和歌山の自然や観光、食の豊かさなどを熱心に説明しました。また、大水害から一年が経った今、ミシュランガイドで三ツ星を獲得している世界遺産 熊野古道や熊野三山にも以前のように多くの外国人観光客が訪れるようになった元気な和歌山をアピールしました。

・今回の取材の様子は、後日、各国の新聞に記事として掲載され、世界に和歌山の魅力が発信されます。



和歌山県庁での知事インタビュー

●平成24年度 わがまち元気プロジェクト 第1弾が決定！！

・地域資源を活用した「まちおこし」に積極的に取り組む市町村等を支援する「わがまち元気プロジェクト」として、「有田川あらぎ島の景観保全と地域おこしプロジェクト」を決定しました。（通算11番目）

・有田川町清水地域は、温泉や恵まれた自然環境を活かした観光が主要産業のひとつでありながら、近年は入り込み客の減少が顕著になっています。

・そこで、有田川町では、全国棚田百選の「あらぎ島」の景観保全を核として、地域が一体となって、観光客受け入れの基盤整備や滞在時間をのばすための仕掛けづくりなど、観光振興の取組強化を進めることとなりました。

・今回のプロジェクトでは、「あらぎ島」とその周辺地域について国の重要文化的景観の選定を目指すと同時に、あらぎ島展望施設や古民家を活用したビジターセンターの整備、さらには、清水の民話にちなんだウォークイベントや、“清水の米”等地域の食材を使った新たな特産品の開発などハード・ソフトの両面からの取組により、地域の観光客数を現在の11万6千人から15万人に増やすことを目指しています。

・皆様も、ぜひ、自然豊かな清水の里を訪ねてみて下さい。



あらぎ島 全景



ビジターセンター（候補地）

● 大規模災害と高速道路を考えるシンポジウムを開催！

- ・10月23日、東京都千代田区のJ A共済ビルにおいて、「大規模災害と高速道路を考えるシンポジウム」が開催されました。
- ・東日本大震災や紀伊半島大水害を教訓とし、東海・東南海・南海地震など大規模災害に備えて、また、企業立地や観光振興、農林水産業の振興など県民の将来のチャンスを保障するため、近畿自動車道紀勢線のミッシングリンクを解消することが喫緊の課題となっています。しかしながら、国の予算が非常に厳しく、大規模な公共事業の新規着手の是非については様々な意見があります。
- ・このため、現状を踏まえながら、紀伊半島における高速道路の必要性や果たす役割について、内外に広く発信するため、和歌山県と三重県、沿線31市町村で構成する近畿自動車道紀勢線建設促進協議会の主催により、今回のシンポジウムの開催となりました。
- ・冒頭、仁坂知事は、「昨年の紀伊半島大水害の救援活動においても、命の道である高速道路の必要性を痛感しました。」と挨拶しました。
- ・基調講演では、関西大学社会安全研究センター長の河田恵昭教授が「地域の絆を高速道路が進める～レジリエント社会を目指して～」と題して、東日本大震災での教訓をもとに、強靱でしなやかな国土形成の一環として、高速道路の必要性について講演されました。
- ・続いて行われた「命を守りチャンスを活かす新しい高速道路のあり方とは？」と題したパネルディスカッションが行われ、河田教授をコーディネーターに仁坂知事、鈴木英敏三重県知事、家田仁東京大学大学院教授、田中里沙(株)宣伝会議取締役編集室長がパネリストとして参加。紀伊半島の現状や紀伊半島大水害などを踏まえ、大規模災害への備えやチャンスを保障する高速道路の必要性、新しい高速道路のあり方などについて討論しました。



●北勢田第2工業団地が完成

・10月30日、紀の川市の北勢田第2工業団地の竣工式が開催されました。

・紀の川市では、企業用地がほとんど完売し、問い合わせに対応できない状態であったため、新たな企業用地として、紀の川市土地開発公社が昨年6月から北勢田第2工業団地の造成を進めていました。

・竣工式で、紀の川市の中村慎司市長は「地域の発展のため、今後も、優良企業の誘致を図っていきたい」と挨拶。来賓として出席した仁坂知事も「紀の川市の発展、延いては県経済の発展につながる」と新たな企業用地の完成を祝いました。

・開発面積は、約11.3ヘクタール、このうち、約7.7ヘクタールが企業用地として5区画に分けて販売されますが、既に、1区画については空調機に使用する熱交換機器等の製造メーカーで愛知県に本社のある中部抵抗器株式会社の進出が決まっています。



●企業立地件数が110件になりました。

・このたび、北辰精工株式会社（本社：大阪府堺市）が橋本市の紀北橋本エコヒルズ「紀ノ光台」へ新工場を建設し、株式会社フューチュレック（本社：大阪府大阪市）が、海南市の和歌山リサーチラボに「フューチュレック和歌山オフィス」を新設することが決定しました。これで、平成18年12月以降の企業立地件数は110件となりました。

北辰精工株式会社が紀北橋本エコヒルズに進出

・北辰精工株式会社は、昭和54年の設立で、鍛造部品と鍛造部品の切削加工、穴開け加工に対して高い技術力とノウハウを持っており、主としてステアリングシャフトやエンジン部品等の自動車部品の製造・加工を行っています。

・現在の堺市にある工場周辺は宅地化が進み操業環境が悪化しているのに加え、同じく「紀ノ光台」へ進出する小川工業株式会社と自動車部品の製造を共同で行うことによる生産能力の向上と受注増への対応のため、新工場を建設し、生産拠点を移転することとなりました。操業開始は、平成25年5月の予定です。

株式会社フューチュレックが海南市に開発拠点を新設

・株式会社フューチュレックは、Webプロダクションとして、Webコンテンツ企画・制作を得意とする会社で、インターネットメディアを駆使して顧客企業の様々な製品やサービスのプロモーションや企画マーケティングに係るシステム開発を行っています。

・近年は、制作作品がカンヌ国際広告祭、東京インタラクティブアドアワード等での授賞実績もあり、高い技術力が評価されています。

・今回、受注増への対応と今後のマーケット拡大を見据えて、開発拠点を新設することとなりました。操業開始は平成25年10月の予定です。

● 「（仮称）和歌山県薬物の乱用防止に関する条例(案)」について

- ・脱法ハーブなどの薬物を使用する者の増加に伴い、和歌山県でも健康被害の発生が報告されており、全国においては、この使用が原因と思われる第三者への被害も発生するなど、深刻な社会問題となっています。
- ・現行の薬事法には指定薬物制度があり、その製造・販売等が禁止されていますが、指定するまで規制ができなかったり、指定後、すぐに新たな類似構造を有する薬物が流通し、規制が追いついていないという状況があります。
- ・東京都では独自に脱法ハーブを調べて禁止の対象とする条例を従前から制定しており、大阪府や愛知県でも昨今の状況を受けて、東京都と同様の条例を制定しましたが、それでも有害性が確認されるまで、規制ができません。
- ・そこで、和歌山県ではまったく新しい対策を考えました。興奮、幻覚など精神作用等を及ぼすおそれがあり、本来の用途に反して身体に使用されるおそれのある製品を「知事監視製品」に指定し、県内業者が例えば「お香」や「ビデオクリーナー」として販売するのであれば、その使用説明書を作って購入者に交付すること、購入者にはその用法を守るといふ誓約書の提出を義務づけます。また、インターネット等を通して県外業者から監視製品を入手した購入者にも直接県当局に誓約書を提出してもらうことにしています。このような本県独自の規制により、県民が脱法ハーブに汚染されることを防ぎ、薬物の濫用から県民の健康を守り、安全で安心して暮らすことができる社会の実現を図っていきます。
- ・これらの対策を盛り込んだ「（仮称）和歌山県薬物の濫用防止に関する条例(案)」は、12月定例議会に提案する予定です。

○脱法ハーブなどの薬物の現況

- 大麻や覚せい剤などに化学構造を似せて作られた物質などが添加され、多幸感を得る目的として、お香やアロマなどと称し販売されている
- 濫用による健康被害の発生、麻薬等の濫用へのゲートウエイドラッグ（入門薬）となるおそれがある。

○現行の薬事法による規制

- 精神作用等を及ぼす成分を「指定薬物」として指定し、製造・販売等流通を規制。
(成分等を指定するまで相当の期間が必要)
- 使用・所持に対する規制なし。



○条例案のポイント

知事監視製品制度(本県独自の規制を創設)

- 精神作用等を及ぼすおそれがあり、本来の用途に反して身体に使用されるおそれのある製品を指定
- 販売、購入等の手続きを義務化し、販売者・購入者等の両者に対し製品本来の用途・使用方法を徹底
- 県内店舗での購入に限らず、インターネットや県外店舗での購入者も対象

知事指定薬物制度

- 薬事法で指定前の精神作用を有し健康被害を起こす成分を県独自で指定し、製造・販売等を規制
- 正当な理由なく所持する者に廃棄義務を課す(本県独自の規制)

薬事法指定薬物

- 正当な理由なく所持する者に廃棄義務を課す(本県独自の規制)

～ 那智勝浦町 ～

献湯祭

- ・11月11日、熊野那智大社において、献湯祭が行われます。
- ・袴を身にまとった旅館関係者により、朝一番にくみ上げられた温泉水が神前に献上され、勝浦温泉の繁栄を祈願する神事です。
- ・神事のあとは温泉水で作った「温泉もち」のもち投げも行われます。
- ・また、この那智山をめぐる定期観光バスに9月末から、かわいらしいレトロバスがお目見え。毎日、紀伊勝浦駅を9時30分と13時05分に出発しています。



勝浦温泉ラクダの湯

生マグロ

- ・勝浦漁港は、はえ縄漁法による生マグロの水揚げ高が日本一。この特産のマグロ1本（約20キロ）を勝浦温泉に宿泊された方々の中から、抽選で毎月1名様にプレゼントするというキャンペーンが現在、実施中です。しかも、自宅など希望の場所で「出前解体」を行ってくれるという、ビッグなサービスがついています。
- ・また、勝浦で美味しいマグロ料理を食べたい、新鮮な生マグロを買いたいという方のために、観光協会のホームページに「紀州勝浦生マグロマップ」が掲載されています。町内の飲食店のオススメメニューや生マグロの販売店の情報が盛り込まれ、ダウンロードすることもできます。
- ・さらに、毎年1月には恒例の「まぐろ祭り」が開催され、大勢の観光客で賑わいます。来年平成25年は、1月26日に開催予定です。

那智勝浦いせえび祭り

- ・和歌山県は、全国有数の伊勢エビの水揚げ高を誇りますが、その伊勢エビの県内主産地の一つとなっているのが那智勝浦町です。
- ・マグロだけではなく、この伊勢エビも大いにPRして、満喫してもらおうと始まったのが「いせえび祭り」で、今年も11月24日に勝浦漁業協同組合の魚市場内で開催されます。
- ・当日は、活け伊勢エビの直売や伊勢エビ汁の無料配布、伊勢エビ料理の販売などが行われ、名前どおり伊勢エビ一色。新鮮で美味しい伊勢エビが堪能できます。



那智勝浦町観光協会ホームページ
南紀勝浦温泉旅館組合ホームページ

<http://www.nachikan.jp/>
<http://www3.ocn.ne.jp/~nk-onsen/>

～編集後記～

日に日に秋が深まってきましたが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、先月、京都大学山中伸弥教授のノーベル賞受賞というビッグなニュースが日本中を駆け抜けました。

山中教授が開発されたiPS細胞は万能細胞とも呼ばれ、今後研究が進み難病治療につながることを期待されています。しかし、山中教授が注目を集めるのはこの研究だけではありません。

山中教授は、整形外科の臨床医時代、手術が下手で「ジャマナカ」というあだ名もつけられていたことや、アメリカとの研究環境の落差に苦しみ、半分うつ状態になったことなど、様々な挫折を乗り越え、様々な転機を経て、研究者として最高の栄誉を手に入れられたということにも、関心が集まっています。

ノーベル賞学者と聞くと、さぞ順風満帆なエリート人生をおくられてきたのかと思いますが、決してそうではない今日までの道程には、多くの人が共感を覚え、勇気もらったのではないのでしょうか。

和歌山の子どもたちにも山中教授が様々な苦勞を乗り越えて、ノーベル賞を掴み取ったことや挫折や失敗にあっても夢と希望を持って、決してあきらめることなく、頑張る大切さを学んでほしいと思います。私も子どもに山中教授のすごさを話してみたいと思います。

朝晩の冷え込みも増してきました。寒さが厳しくなる折、皆様方には風邪など召さぬよう、お体に十分気をつけてお過ごし下さい。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧ください。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2012年(平成24年)11月 NO.55

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022